

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げて共有し、実践につなげています。理念の確認をスタッフ間で行っています。	事業所の理念についてはスタッフルームに掲示し朝礼時に唱和したり、会議の中でも話し合われています。また、新しい職員にも管理者より理念について話をし職員間で共有し実践に繋がられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加は、コロナの影響で行えない事が多いが、努めています。	地域への行事参加についてはコロナの影響を考慮し現在は控えられています。	以前出来ていたことについては、状況を見ながら少しずつ戻していけるよう考えられています。今後の対応に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問や電話での相談、地域包括主催の見学交流会に参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営報告を行い、参加者の皆様からご意見を頂きサービス向上に活かしている。	2ヶ月1度市や区、他施設の方も参加され開催し、ホームの活動や運営について報告し、意見交換を行いサービスの向上に繋がられています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	連絡を取り合い協力関係をきかずしています。認定調査や、事故報告等も行い連携を図っています。	何かあればメールや電話にて連絡されています。またアンケートや行事の知らせなど、日頃から相談できる協力体制を築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束について研修を行っています。エレベーターには施錠していますが各階のドアは開放しています。希望時は付き添いにて対応もしています。	マニュアル・指針の作成や年2回の研修を行い職員に周知し、新人職員にも管理者が身体拘束について話し、全職員が理解し身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を行っています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様にもご協力頂いて十分に時間を取り説明を行っている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は必ず家族様との会話の時間を設け運営に反映させている。	ご家族には面会時には必ず職員との話をする時間を設け意見を聞かれたり、電話をする時も要望がなにかなどを聞き運営に反映されています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月一回の職員会議にて意見を出し合い合意の上で反映させている。	月1回の会議、また年1回の面談などで意見をきかれています。また日常的に管理者は話をする機会を設け要望や意見を聞き運営に反映されています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面接を行い本人の状態を把握している。また職場環境についても整備を進めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の研修を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	西区グループホームの管理者が集まる連絡会議に参加し、交流する機会を設けている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始事前 面談の機会を設け不安なことや要望などを伺っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始事前 面談の機会を設け不安なことや要望などを伺っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始事前 面談の際に何が 必要かを考え、 他のサービスを含めた相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションを密にとり、楽しく生活できる環境をお互いに話しながら工夫している。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を含め、家族様との会話を重んじ、現在の本人様の状況をお伝えしながら支援の工夫を相談している。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の面会以外にも友人様の面会も多く、絆が途切れないよう努めている。	面会・電話・手紙にて継続な支援を行い、友人の面会などもあり関係が途切れないよう支援されています。また、ご家族の協力を得て外出もされています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や外出の機会を設け、利用者様同士が交流できる環境作りを工夫し、時には職員も会話に入り支援している。行事を通して各階の交流を図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「何でも相談して下さい」とお伝えしており、相談があれば対応している。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族様のご意見を取り入れ、本人様の立場になり本人らしく生活できる環境作りの工夫に努めている。	入居前のアセスメントや日頃の会話の中から情報収集を行い思いや意向の把握に努められ、その人らしく生活が送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人様・家族様から入居後も生活環境や性格などを伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌を通じ、一人一人の生活状況を把握・共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、家族様・本人様のご意見を参考に介護計画を作成し、実施している。	本人・ご家族の意見を参考にし職員間で意見交換を行い、毎月のモニタリング、6ヶ月に1度の介護計画の見直しをされています。状態に変化があれば随時見直しをされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施計画書を作成し、1か月に1回の評価を含め、実施状況の把握に努めている。また、朝礼にて情報交換も行い、担当者会議にて介護計画書の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズに対して、本人様・家族様の要望に可能な限り応えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源や情報は常に最新のもの把握し支援するようにしている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との関係は築いており、主治医と密に情報交換を行って健康管理に努めている。	週に1回の往診があり、主治医の専門外等についてはご家族の協力のもと外部受診をしています。また、主治医とは24時間連絡可能で、適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護との関係は築いており、主治医と密に情報交換を行って健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は安心して治療できるように介護サマリーを提出し病院側の相談員と連絡を密にして早期退院向け連絡相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を説明し、利用に際しての了承を得ている。	入居時に終末期の希望を聞くほか、重度化した時にももう一度確認するなど、ご利用者、ご家族のご希望に沿ったケアができるよう、その都度確認し支援しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてホーム内研修を行っており、実践力を強化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した避難訓練を行っており、緊急時のご協力も地域の方にご協力を依頼し、了承して頂いている。	年に2回の消防避難訓練を夜間想定も含め行い、2日分の食料を施設に備蓄し、万が一に備えています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に人格の尊重・プライバシーの確保は徹底させている。	研修を行い、具体的に排泄介助時は、カーテンやドアを閉める、優しい声掛け、対応を基本にし、徹底しておられます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で選択肢を提供し、自己決定をして頂ける場面を支援している。 (お誕生会の企画や外出、入浴、飲み物等)	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせた生活環境の工夫を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択や個人的な化粧品等本人様と話しながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理・盛り付け・準備・後片付けを行っている。	ご利用者にご協力いただけることにはしていただきながら美味しい食事を職員も一緒に楽しんで作っています。献立は系列の事業所が作成しており栄養管理もできています。衛生にも気を付け手指消毒も徹底しています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては連携施設の栄養士協力を頂き提供している。また、食事量・水分量は毎日チェックし状態観察に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診と協力して実行している。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄管理を行うことで一人一人の排泄状況を把握し、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別で対応しています。できるだけトイレで排泄できるように支援し、介助、声掛けを行っております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分接種の把握に努め散歩や室内運動により適度な運動も提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を基本とするが、体調や希望に応じて他の階の入浴日に対応している。	週に2回の入浴を基本としていますが、入浴が好きな方や、拒否される方などの対応についても、清拭に変更したり、ご希望で曜日を換えたり等臨機応変に対応しております。	柚湯や菖蒲湯など季節を感じられるお風呂などがあると、また楽しみが増えるかもしれません。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースに合わせ、睡眠・休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師と連携し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事を最低月に1回は行っており、日常生活でも役割をもって頂けるよう工夫している。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って外出を支援している。また、行事などは利用者様と相談しながら企画も練っている。	コロナ前は、近所のスーパーに出かけたりご家族と外食したりしていました。今は、ドライブに出かけるなど工夫して外出機会を増やせるよう取り組んでおられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合、家族様承諾も得て支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様のご希望時実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごして頂いている。	空気清浄機を各階に2台置き感染対策に努めています。陽射しを見ながらカーテンを開け閉めし、心地よく過ごせるよう気配りされています。入居者様もゆったりと落ち着いた表情で過ごしておられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階には談話のできるリビング、1階にも電話のできる空間を作り、玄関にはベンチもご用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用時に本人様の馴染みのものを持参して頂くようご協力をお願いしている。	基本的にはご本人が快適に過ごせるようであれば、危険なもの以外は持ち込みは自由です。床は畳になっており、仏壇を置いていらっしゃる方もいました。入居前にご家族と相談し、馴染みのものを持ってきていただいています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様のできることを見出し、本人様の役割を持って頂ける環境作りを工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない